

みんなで さつぷりもつと いい町へ

# 美郷町 合併10周年 記念式典

**美**郷町が「平成の大合併」秋田県第1号で誕生し、本年11月1日で10周年を迎えました。町ではこれを記念して、同日に美郷総合体育館リリオスで美郷町合併10周年記念式典を挙りました。

式典には、佐竹敬久秋田県知事をはじめ、町と連携・交流する自治体や大学、企業の関係者のほか、町民の皆さんなど約350名が出席しました。オープニングでは、合併からこれまでの出来事をまとめた映像がスクリーンに映し出され、町の10年間の歩みを振り返りました。

松田町長は式辞で「公共施設再編や学校再編など、『融和と前進』を合言葉に歩んできた10年間は変化の積み重ねだった。10年の節目に何を思い、どういう未来を描くのが、これからの未来を形作る。皆さんが築いてきた美郷町の姿がさらに大きくなるよう、引き続き協力をお願いしたい」と述べました。



来賓の佐竹知事は、「人口減少と少子高齢化が進む中、美郷町は合併自治体が抱える課題に取り組み、交流する自治体や企業などの町外の力も積極的に活用し、情報発信や産業振興に努めている。こうした成果は、行政や町民が自らの創意工夫で地域の活性化を図ろうとする努力の賜物で心強い。本日の記念式典が美郷町の次の時代に向けた大きなステップとなつてほしい」と祝辞を述べました。

出席者は、町内コーラスグループによる町民歌とともに10周年の節目を祝いました。

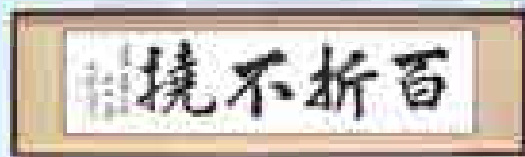
## 美郷大使の方々から扁額や絵画を制作していただきました

扁額とは、門戸や室内に掲げる横に長い額のことです。美郷町合併10周年を機に、美郷大使である町田睿さん、佐々木毅さん、高階秀爾さんに書（扁額）を、永田萌さんに絵画を制作していただきました。それぞれ美郷の子どもたちに対するメッセージが込められており、11月1日の記念式典の際に披露されました。

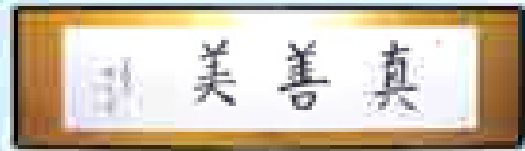
美郷大使の扁額や絵画は、美郷町学友館において次の日程で一般公開された後、町内小・中学校にそれぞれ掲示する予定です。この機会に皆さんもぜひご覧ください。



■永田萌さん 「美しき水の郷」



■町田睿さん 「百折不撓」



■佐々木毅さん 「真善美」



■高階秀爾さん 「温故知新」

**ご好評につき会期を延長しました**  
**美郷町所蔵品展**  
美郷大使による扁額や絵画のほか、町が所蔵する書蹟や歴史資料も展示しています。  
開催期間●12月28日(日)まで  
会場●美郷町学友館  
入館料●無料

# 美郷大使記念鼎談

美郷大使記念鼎談

郷町合併10周年式典に引き続き、同日、同会場で美郷大使記念鼎談「美郷大使（さと）の輝く未来に向けて」を開催しました。松田町長を進行役に、美郷大使である町田睿さん、佐々木毅さん、永田萌さんが意見交換を行いました。大使の皆さんからどんな提言があったのか、鼎談の内容をご紹介します。（一部抜粋および編集）

## 将来の美郷を担う子どもたちの、グローバル化社会への対応と教育環境づくり

佐々木大使（以下、佐々木）…

今、日本に生きる人々の環境も大きく変わってきています。情報や日々の色々な動きが流動化してくるということは、社会の基本的な構造というものも流動化してくるということだろうと思います。そこで、若い方々に期待され、また望ましいと思われるのは、流動化する動きに対して一定の感受性を持つということだと思います。新聞やテレビなどに出て来る事柄を追いかけていくというような感受性、習慣というのを子どもときから身に付けてもらいたいと思っています。

おそらく、この21世紀の世の中というのは、しばらく非常に変化に富んだ時代を迎えることは間違いないと思います。そういう中で、自分がどういうふうにいるから生きていくかという選択は非常に

難しい。20世紀に生きてきた人間には想像できないぐらいに難しいことだろうなと、私は想像しています。従って、あまり型にはめて慌てて決め打ちをするという必要性は必ずしもないかと思えます。また、何分にも長生きをするようになつたものから、一生の間に色々な活動ができるような時間を各自持つようになりました。したがって、一つのことだけで自分の一生は終わりであるというふう

に考える人もいるかと思いますが、多くの人にとっては色々なことをするチャンスがある。あるいはもっと言い方を変えますと、色々なことをして生きてもらわなければ社会がもたないという時代になるのではないかと思っています。その意味では、色々な情報を含めて社会の動きに対して、アンテナを張り巡らすような

環境や社会的な雰囲気は日常的に形成されれば、素晴らしいと思います。

つまり、結局は美郷町をどういうふう

永田大使（以下、永田）…

私は松田町長が就任されて1年後くらいに、文化庁の天然記念物の視察ということで初めて美郷町を訪れました。その

ときに、水の清らかさ、風景の美しさ、圧倒された思い出が今もすごく新鮮なんです。それから5周年にも出席させていただきましたし、町内の小学生、中学生の皆さん方との交流もさせていただきました。今の美郷町の子どもたちは、本当に恵まれた環境の中で、学生時代を過ごされていると実感しています。おそらく特段に問題があると思われません。

印象的に覚えていることは、当時、教育委員会が全生徒にアンケートをとられた幾つかの項目の中に、「学校へ行くのが楽しいですか」という質問があって、それにほぼ100パーセントの子どもたちが「楽しい」と答えているというアンケート結果を聞きまして、本当にうらやましいと思いました。当時、私は兵庫県

の教育委員を務めていましたので、県に戻って話しましたら、委員と事務局一同、なんて素晴らしいことだと言いました。それから後にお会いしても、みんな丁寧に背筋を伸ばしてきちんと挨拶をしてくれるんですね。これは、やはり学校教育というより家庭教育、おそらくまだまだ大家族で、おじいちゃん、おばあちゃんもいらっしやる環境の中で育っているお子さんが多いんじゃないかなという印象を持っています。

	<b>町田 睿さん</b> 昭和13年、旧千屋村生まれ。元(株)北都銀行取締役会長ならびにフィデアホールディングス取締役会議長。千葉県在住。
	<b>佐々木 毅さん</b> 昭和17年、旧千屋村生まれ。元東京大学総長、日本学士院会員。東京都在住。
	<b>永田 萌さん</b> 昭和24年、兵庫県生まれ。絵本作家。元兵庫県教育委員会教育委員長。京都府在住。